

多職種で支える精神科医療

訪問スタッフ「おはようございます、河合です。来ましたよ」
Aさん「待ってましたよ。今開けるから入って」
訪問スタッフ「おじゃまします。調子はどうですか？」
統合失調症のAさんとの何げないあいさつから訪問看護が始まります。

■ □ ■
慈恵病院の訪問看護室では、



かわい・えりこ 国立岡山病院
附属看護学校、岡山県公衆衛生
看護学校卒業。1994年保健師
として慈恵病院に就職。以来、精
神科訪問看護に従事。2018
年より訪問看護室室長、現在に至
る。

② 信頼関係で地域生活を支える ～精神科訪問看護～

慈恵病院訪問看護室室長 河合 絵利子



訪問看護室の多職種スタッフ。上段左より西岡作業療法士、
上村看護師、正岡精神保健福祉士、河合保健師、下段左より
松田看護師、杉原保健師、大月保健師

岡山市南区を中心に、現在11
5人の利用者を7人の多職種ス
タッフで訪問しています。統合
失調症・そううつ病・うつ病・
発達障害・アルコール使用障害
などを抱える当院の通院患者さ
んが対象です。

精神疾患を患うと、症状だけ
でなく、何らかの生活障害(生
活のしづらさ)を抱える方が多
く、生活のしづらさも患者さん
それぞれに違います。例えば「食
事がとれない」といっても、意
欲や食欲の問題、経済的問題、
「ごはんに毒が入っている」と
いう妄想や、摂食障害、胃腸障
害、歯の問題など患者さんそれ
ぞれです。

訪問看護では、患者さんのお
話を丁寧に聴き、その人なりに
問題解決できるように一緒に考
え、少しでも楽しく健康な生活
が送れるように支援していきま
す。

いけません。

また、患者さんの地域生活に
は、症状が安定していることも
大切です。そのため服薬の支援
や症状の観察、不調時の対応に
はとても気を使います。患者さ
んが困っていることはいかに、
いつもと違った様子はないか、
家族関係など何げない会話を通
して把握します。

そして何よりも、「この人に
相談しよう」と思ってもらえる
ように信頼関係を築くこと、「来
てもらってよかった」と思って
もらえるように患者さんのニー
ズに沿った支援を行うことを心
がけています。時には「何でも
屋」のような、柔軟な対応が求
められます。

そこで、多職種による支援が
いきてきます。健康面、生活面
については保健師・看護師が、
日中活動や余暇の過ごし方など
行動面については作業療法士
が、経済的問題や就労支援、福
祉サービスの導入や調整など社
会面には精神保健福祉士と、そ

それぞれの専門性をいかして活
動しています。

■ □ ■
訪問看護師「お薬きちん
と飲んでいますね。Aさんが
んばっていますね」
Aさん「薬はちゃんと飲ん
どるよ。よく眠れるし、気に
なることもないよ」

訪問看護師「よかったです。
気になることはいつでも相談
してくださいね。来週また来
ます」
Aさん「ありがとう、また
来てな」
笑顔のAさんに訪問スタッ
フも笑顔になり、次の訪問先
へ向かいます。

(近年はコロナウイルス感
染対策のため、換気、アイシ
ールドとマスクの着用、体温
測定、訪問前後のアルコール
消毒などを徹底し、活動して
います)

◇ 慈恵病院(086-262
-1191)